

## 令和3年度広島県食育推進会議 議事要旨

日 時 令和3年7月5日（月）19：00～20：45

場 所 県庁北館2階 第1会議室

出席者 森脇委員（会長）、魚谷委員（副会長）、下西委員、瀬川委員、木村委員、  
源田委員、山田委員、手塚委員、北村委員、三好委員（代理：宇佐川氏）、  
久保井委員、西中委員、岩永委員、堂本委員、新原委員（代理：原垣内氏）、  
（以上15名）

### <議事>

#### 開会

#### 開会あいさつ

木下健康福祉局長

令和3年度広島県食育推進会議の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は大変お忙しい中、会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。また委員の御就任にあたりましては、快くお引き受けいただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、現在進行中の第3次広島県食育推進計画は、平成30年3月に策定し、令和2年度末で丸3年を経過いたしました。

この間、子供の頃からの正しい食習慣による生活習慣病の予防と、健康の保持・増進を図り、総括目標である「健康寿命の延伸」に向けて、3つの重点目標を設定し、市町や団体の皆様の御協力により取組を進めてまいりました。

重点目標のうち、食塩摂取量の減少、野菜摂取量の増加の2項目につきましては、平成29年、30年国民健康・栄養調査結果において、やや改善が見られたものの、令和元年調査では若干悪化しております。毎日朝食を食べている県民の割合増加につきましては、未だ大きな課題の一つです。

また昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、予定されていた各種事業が縮小または中止となった地区が多くあり、食育推進に関しては、思うような取組が実施できなかった年でもありました。

今後は、新しい生活様式を踏まえつつ、県民一人ひとりが食に関する知識を身につけ、判断力を養い、適切な食生活を実践することにより、いつまでも健やかな生活を送ることができる広島県の実現に向けて、取組を進めていく必要があると考えております。

本日は、委員改選後初めての会議でございます。委員の皆様には、本県における今後の推進方針等について御協議をお願いするとともに、この会議が実りあるものとなるよう祈念しまして、開会の御挨拶とさせていただきます。

#### 会長及び副会長の選任

委員の互選により、森脇会長、魚谷副会長が選任された。

## **議事 1：第 3 次広島県食育推進計画に係る取組状況について**

事務局：次の資料に基づき説明

資料 1 第 3 次広島県食育推進計画 進捗状況【目標シート】

資料 2 第 3 次広島県食育推進計画 令和 2 年度の主な取組内容

資料 3－1 第 3 次広島県食育推進計画 基本的施策 県関係課の取組

資料 3－2 第 3 次広島県食育推進計画 基本的施策 関係団体の取組

資料 4－1 市町及び保健所における主な取組内容 食育月間の取組

資料 4－2 市町及び保健所における主な取組内容 食育月間以外の取組

資料 4－3 市町及び保健所における主な取組内容 食育の日の取組

資料 5 広島市における主な取組内容

### **【令和 2 年度における主な取組内容について】**

森協会長：事務局からの説明（目標の達成状況、関係者の取組）について、御意見、御質問等はないか。

岩永委員：15 ページ、生活の困難な状況にある子どもに対しての食育推進のところ、子どもの貧困対策について支援を行います。という部分についてお聞きしたい。令和 2 年度の事業実績について、多分 5 ページに書いてあると思うが、モデル 1 か所で朝食摂取事業を再開とある。このモデル 1 か所というのは、どこで行われたのか。

事務局：実施主体は、子供未来応援課である。本日担当者が欠席のため、事務局で詳細把握できていない。後日お伝えさせていただく。

岩永委員：生協ひろしまに所属している。いつもは産地見学や生産者との交流会を実施しているが、去年はこれらができなかった。そのかわりに、広報誌等で食に関する PR や質問に答えることなどを実施している。

ひとつは、「こーぷパレット」、これは毎月発行しているが、ここに「食のほっとニュース」というページがあり、例えば今月はカロリーと脂肪というテーマである。毎月、様々なテーマで啓発している。

これは、エシカル消費についてのパンフレットである。エシカルというのは「倫理的な」（という意味であるが）、環境にやさしい商品を食べることで、食べるだけでなく、環境のことも考えるということ。この勉強会のためのパンフレットであるが、こういったものも活用し、日々、組合員の食育、食の啓発に努めている。

森協会長：ありがとうございました。コロナ禍における取組紹介は、一番最後に、皆様方にお聞きする予定である。

## **議事 2：第 3 次広島県食育推進計画下期の取組方針について**

事務局：次の資料に基づき説明

資料 6 第 3 次広島県食育推進計画下半期の取組について

資料 7 食育推進事業進行スケジュール

【第3次広島県食育推進計画下期の取組方針について】

森協会長： 私からお聞きしたい。資料6の、6 取組方針（3）に、「食に対して直接的にアプローチするため、JAや食品事業者等との積極的な連携を図る。」とある。

広島県農業協同組合中央会において、現在どのような取組をされておられるか、御紹介いただきたい。

久保井委員： 我々JAグループは、農業を通じた食育、食農教育という言い方でいろいろな活動をさせていただいている。特に幼稚園や小学校を対象に、野菜を作ったり、芋を植えたり、収穫をしたり、これらは盛んにやっている。しかし、コロナの影響で実施できないケースも多い。

今、バケツ稲、バケツで稲を育てる取組であるが、米を作るにはこれだけ手間がかかるということを理解してもらうために、今年も県内2,500か所余りの学校に（種もみや肥料などのセットを）配布し、教育の一環で使っている。

コロナの関係で言えば、業務用の野菜や米の消費は大きく減った。

業務用については大分回復しており、野菜については直売所やファーマーズマーケットでは、（コロナのおかげで）逆に需要が伸びている状況にある。

米については、業務用の米の需要が全国的に下がっており、外食が減ったという理由であるが、これは米の今年度産の価格に関係してくることから、学校給食（における米飯の提供回数を）、3.5回/週 平均から、4.5回/週に増やそうという計画がある。また、フードバンク、子ども食堂、そういったところに米を提供していく。そういったことを農林水産省において検討している。と聞いている。

森協会長： 他に何かあるか。食育に関する情報交換の場にしてもらったと思う。

堂本委員： 私はこの会に最初から参加している。

広島県の健康状態は全国から見てどうなのか。例えばどのくらいの位置づけに居るのか。

例えば、長野は長生き、或いは塩分が多いなど、各種の話があるが、広島県はどの辺に位置しているのだろうか。例えば塩分摂取量であれば日本全国でどのくらいの順位なのか。

事務局： 健康寿命については、男性は全国で27位、女性は46位というのが直近、平成28年の状況である。平均寿命は割と良いが、健康寿命が良くないというのが、本県の課題である。

食習慣の改善、運動習慣、健診受診等を進めていかなければならないと考えており、まさに本日の内容である、食育の推進にも期待している。

堂本委員： 女性の方が悪いのか。

事務局： そのとおり。

森脇会長： 堂本委員の所属会社でも良いし、食品業界全般でも良いのだが、健康増進のために、こんな食品を販売している。といったことがあれば御紹介いただきたい。

堂本委員： 健康関連での食品は、私どもはやっていない。美味しさで食べていただけるというところをやっている。塩分は、特に薄くはしていない。

コロナに関連して、先ほどから取組が色々出ているが、外食企業の方々、生協への出荷も増えている。

家庭内で食事をするというのも大変増えている。私も家で食べるようになり、大変健康になった。酒は飲まない、または飲酒量が少なくなった。これにより体重が減った。

減塩食品については、商品が沢山出てきている。(どの商品を購入するかは) 消費者の方々の選択であると考えている。ごぼう等、繊維の入ったものはなかなか評判が良い。

魚谷委員： 生協は家族も利用している。

岩永委員： 生協は、組合員活動で、食育を第一の柱として、長年取り組んできている。去年は活動ができない年であった。今年は出来ればいいと思っている。

魚谷委員： 減塩と野菜について、例えば高血圧を考えてみると、塩分過多は血圧に良くないが、腎臓が十分機能していれば、野菜(カリウム)をしっかり摂ることで、血圧が下がってくる。

そこで、例えば栄養士の監修による、減塩と野菜たっぷりを満たし、かつ消費者が「これは美味しい」と食べてくれるような、また、電子レンジで簡単に調理できる、便利な食品やメニューをこの会で検討したりできないだろうか。

森脇会長： 広島県栄養士会の木村委員、栄養士会で取組んでいるようなことはあるか。

木村委員： メニュー開発等については何もしていない。皿の上に何かが載っていて、それを電子レンジで調理すれば、(健康に良く)美味しいものが出てくるというイメージか。

魚谷委員： 忙しい時間の中で、材料から料理をするのは大変なのだろうと、母親を見ていて感じる場所である。

先ほどの、減塩で野菜たっぷりを満たし、かつ美味しいメニューが、保存がある程度効くような形で手軽に手に入れば、我々が定期的なメニューとして手にすることができる。そのようなメニューが普及しないのかと思った次第である。

木村委員： 高血圧学会がナトリウム・カリウムの調査を全国的に始めており、その研究に関わっている。

(野菜摂取量の目標は) 1日 350g、毎食 100g～120、130g であるが、それでカリウムは充足できる。バランスの良い主食と副菜、塩分が薄く、それも、簡単なセットのようになっている。そういったものが普及すれば良いというイメージであるか。

それならば、特段変わったものではなく、これまで啓発してきたような、健康的な食事というもののことではないかと思う。

魚谷委員： そのとおりである。

病気の方に、治療食のお弁当を配食してもらうことがある。かなりの肥満の方も、とてもすっきりされ、そうすると非常に元気が出るという事例がある。

本人が好きなものをスーパーで買ってきて、食べて、そして動かない。という生活習慣が何年も続いている方、一旦配食をお願いしようと、これは介護保険のサービスを利用したのだが、ケアマネージャが介入すると、生活習慣自体が変わって健康を取り戻すという事例があったので、お尋ねしたところである。

木村委員： そういったものを栄養士会が率先して開発しているかという点、現状、取組は実施していない。

「食」というのは本当に特殊で、生産・加工・流通に関わる方が（連携し）、食べることができる時、食べたい時、食べるべき時に、その方のそばに（食事が）届いていないといけない。大変大きな取組を必要とするジャンルである。

魚谷副会長の御意見は、本当に的を得たことだと思っている。食べたい時にバランスの取れた食事が提供される。まさしく、この会の目指すべき具体的な姿を示していただいたと思う。大変貴重な意見をありがとうございました。

森脇会長： 他に意見等はあるか。

岩永委員： 先ほど、野菜をどうしたら多く食べられるか。という意見があったが、大きいものを買うと食べきれない。簡単に、いろんな野菜が料理に入る商品としては、切ったもの、或いは冷凍したもの、生協だとミックスベジタブル、（これは野菜が）5種類くらい入っているものであるが、人気である。

自分も一人暮らしであるが、こういった商品を使うと、沢山の種類の野菜が食べられるので便利である。

### **議事3：その他**

#### **【コロナ禍における食育の取組について】**

森脇会長： 参考となる御意見を多数いただき、ありがとうございました。

議事はいったん終了するが、コロナ禍における食育について御意見をいただきたい。現在、対面での活動は難しいと思うが、どのような工夫をされているか。広島県食生活改善推進員協議会の源田委員、何かあれば発言いただきたい。

源田委員： 広島県食生活改善推進員協議会は、県内14の支部に分かれている。

活動スタイルとしては、まず（市町）事務局を通して研修を受ける。

研修で学んだことを地域の皆様に伝え、そして共に調理をし、和気あいあいと話をしながら楽しくやっていた。それが当たり前の活動であった。

しかしコロナ禍において、これまでやっていたことが何もできなくなった。会場も借りることができない。そのような中でたどり着いたのが訪問活動である。

会員がレシピを作り、教材を考え、用意し、出向いていく。作り方や、高血圧の方にはこういった料理が良い。といった説明をしながら、地域の方と話をする。これは非常に喜びであった。そして皆さんから、調理をした活動がもう一度できたらいいという声をいただいた。

また、コロナ禍で雇用や収入に不安がある方は、食育にも影響があるのではないかと感じている。先日、シングルマザー対象にアンケートを取ったという新聞掲載を見た。1回の食事量が減った。食事回数が減った。おやつが食事になってしまう。炭水化物だけの食事やインスタント食品が増えた。そういう回答がなされていた。

ひとり親家庭、一人暮らしの男性といった方々に、我々の食のサポートが出来たら良い。と、今回特に感じたところである。

森脇会長： 小学校や幼稚園で取組んでいることがあれば紹介願いたい。

北村委員： 小学校においても、コロナにより様々な制限を受けている。

緊急事態宣言中は、調理実習の実施は見送った。しかし、子ども達の大好きな調理実習である。いつまでも「できない」ではなく、できる時にチャンスを生かしてやっていこうということで、本年度は、緊急事態宣言が解除されて以降、調理実習を再開した。

しかし、今までのような調理実習はできない。調理実習の時にはマスクを着ける。しかし最も危険なのは、マスクを外して会食するときである。そこで、教室を二つに分け、向いあわせにならないようにした。(以前のよう)な会話をしながら食事を摂るということはできなかった。

給食においても特に気を遣っている。マスクを外す場面で、どのように食事をしたら良いかということ、子ども達にしっかり話をしている。給食は食育を進めていく上で非常に重要である。バランスも、一人分の分量も計算されている。子どもたちには、「食べることは生きること」を教えたい。コロナ禍においてもできることをやる、また、コロナ禍が終わったとしても、今までどおり食育というのを大事にしていきたい。

学校においては、あらゆる教育活動の中で食育を進めている。野菜を育てる、作ったものを食べる、食品ロス等、このような事にも目を向けながら、(引き続き)食育を進めていきたいと思っている。

岩永委員： 「けんこうチャレンジ」のパンフレットについて、先ほど(事務局から)説明いただいたが、参加がとても簡単になった。以前は事前申し込みが必要であったが、パンフレットに付属のハガキを出すことで簡単にエントリーできる。

内容は、大人用と子供用があり、大人用には17コースが設定され、この中から選ぶようになっている。コースの内容を読むだけで、健康になれるのではと思う。子ども用は、お絵描きしながらできる趣向である。

去年はコロナの影響でPRが十分でなく、4,000人くらいの参加であった。

おうち時間でできる取組である。チャレンジ参加により健康に過ごせると思うので、

是非沢山の皆さんに御参加いただきたい。

問い合わせは、中央保健生協、医療生協である。よろしくお願いしたい。

森協会長： 他に何かあるか。

久保井委員： コロナ禍の中での活動ということで、ひとつ紹介させていただきたい。

昨年、生協連も加入されている、H J C（広島県協同組合連絡協議会）と連携し、コロナ禍で困っている学生支援を実施した。学校生協のある、広島大学、広島修道大学、福山市立大学、そして、J Aグループがお世話になっている市内の3つの女子大学等を対象に、2,100人位の支援をしようという取組である。

J Aグループは米を、2キロの袋に小分けして提供した。特に広島大学への支援においては、平成30年豪雨の時に被災した、河内町宇山地区の法人が栽培した米を送った。いわゆる災害復興の証である。そんなストーリーも含めて支援した。なお、福山、広島では地元産の米を配布している。

森協会長： 貴重な取組の報告、ありがとうございます。事務局そして関係の方々におかれては、本日の情報を組織内で共有し、今後の事業の参考としていただきたい。

## **閉会挨拶**

久保総括官

本日はお忙しい中、第3次広島県食育推進計画の取組について熱心に御協議いただき、ありがとうございました。

本日のキーワードにもありましたが、本県では、人生100年時代を真正面から見つめ、健康・保健・医療に関する様々な計画を推進しているところでございます。

とりわけ、団塊の世代が75歳以上となる2025年問題については、我々も非常に重く受け止めている次第です。2025年をきちんと迎えるためにも、先ほどからご検討いただいている健康寿命の延伸といったところでも取り組んでいるところでございます。

そうした中におきまして、本日御議論いただきました食を通じた健康づくり、人生100年時代に取り組んでいかなければならないと思っているところ、様々な御意見、ご提案をいただきました。とりわけ、コロナ禍にあってどうやって健康づくり・食育を進めていくか。といったあたりにつきましては、様々なご提案、実践の中身をお知らせいただいたところです。

本日を契機として、皆さんで共有し、取り組んでいくことができればと思っております。

人生100年時代を迎えるためには、若いころからの健康づくりが非常に重要だと思っております。そういった点につきましても、引き続き御協力をいただきたいと思いますと思っております。

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

閉会